

学習内容報告書 フォーマット

学校名	玉野市立玉原小学校
授業者	沖 帆乃香

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

渋川の環境について調べよう。(砂に着目)

1-2. 学年

5年

1-3. 教科 (単元を実施する教科を全てお書きください)

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

これまでの総合的な学習において、海の水質 (渋川海岸) について海洋生物の採集を通して学ぶことができた。児童は、玉野市が面している瀬戸内海の①水質がきれいなこと②生物環境は大変豊かなこと、この2点について学習することができた。同時に、渋川海岸にタバコや漂流物があることに気付き、周りの環境に関心をもった。

そこで、この単元では、渋川海岸の砂に着目し、調べていく。渋川海岸のみでは環境について調べるのが難しいため、外部講師に相談し、太平洋側の高知県の砂浜と渋川海岸の砂を比較することで砂に含まれる貝や漂流物から環境について確認していくことができるよう計画した。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

単元設定の理由

・本校は、身近に美しい瀬戸内海が広がる恵まれた環境であるが、なかなか児童がそのすばらしさや人々が環境整備に努力していることなどをよく知らない現状がある。前単元に引き続き、実際に高知県と渋川の砂を調べる体験活動を通して、あらためて今後の地域の環境保全について考えることができるようにしたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

1 粘り強く課題を解決する力

・自然との関わりの中から、課題を見つけ出し、GT (外部講師) に質問したり、資料に基づいて調べたりしながら、友達と協力して解決しようとする。

2 調べたことを簡潔にまとめ、GT (地域人材) や他の学年に分かりやすく伝えることができる。

1-7. 単元の展開 (全 13 時間)

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3 時 間	1 「渋川海岸の周りの環境を調べよう」 2 海洋生物学習で学んだことや気になったことを話す 3 学級でこれから調べたい課題を決め、目標を立てる。 4 現状を予想し、調べる。 5 ふりかえり	<u>教師の指導</u> ・海洋生物学習の振り返りや写真を用意し、想起させた。したことにだけ目を向けないように周りの環境の写真も用いた。
3 時 間	1 「海の水はどこからくるのだろう。」 外部講師のプレゼンにより、海の漂流物はどこからきているかイメージできるようにする。 2 高知県の砂と渋川海岸の砂の比較をする。 3 砂の中から貝や漂流物を採取し、環境について調べる。 4 ふりかえり	<u>教師の指導</u> ・外部講師のプレゼン資料により、海の水はどこから来ているのかイメージする。 ・正しく調査するための約束や手順を確認する。 <u>外部連携</u> ・黒潮実感センター <u>主な評価</u> (知識、思考) 児童のふりかえりワークシート記入内容で評価
2 時 間	「学んだことをまとめる」 1 砂の比較から気付いた渋川海岸の周りの環境についてまとめる。 2 分かったことを分類し、グループをつくる。	<u>教師の指導</u> ・子どもからでた分かったことを分類分けし、テーマをつけてグループを分ける。そのグループで次時から発表資料を作成する。
5 時 間	「発表資料を作成し、分かりやすく伝えよう」 1 発表資料を作成しよう ・スライドを使って、発表資料を作成する。 2 保護者や3年生に調べたことを分かりやすく伝えよう。	<u>主な評価</u> (思考、判断、表現) ・プレゼン資料を分かりやすくまとめることができているか。 ・クロームブック (スライド) を使って発表資料を分かりやすく作成しようとしているか。 ・相手を意識して、友達と協力しながら工夫して発表することができているか。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

・採集した砂について、事前学習や資料をもとに調べたり、外部講師の話を聞いて環境と関連づけたり確認したりする。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 高知県の環境や今の海の現状についての話を聞く。	○事前学習で確認した安全に体験活動を行うための留意事項について確認する。
2 6グループに分かれて、渋川海岸の砂と高知県の砂から貝や漂流物を採取し、比較する。 ／児童は、見た目の色や砂に含まれているものからすぐに違いを実感していた。太平洋側にある高知県の砂と瀬戸内海側にある渋川海岸の砂とでは、漂流物も生息する貝の種類も異なることに目を向け、意欲的に漂流物と貝に仕分けをしていた。 ／高知県の砂には漂流物にマイクロプラスチックが含まれていること、角貝やきれいな海に生息する微小貝が渋川海岸の砂には含まれていることに気づき、渋川海岸の環境は豊かであると分かった。	○児童18名、教員1名（担任1名）、外部講師1名、で児童への指導支援について役割分担した上で連動した指導・支援を行う。／担任は適宜児童の活動を観察しながら活動記録写真を撮影する。目標の評価、行動観察及び記録写真確認による評価 ○班ごとに安全に楽しんで活動できているか確認し適宜指導・支援をする。 ○巡回指導しながら指導・支援を行う。／目標の評価、行動観察による評価を行う。
3 渋川海岸と高知県の砂をさらに比較するため、砂を入れたパッドに水を注いで経過を観察する。 ／水を入れると、高知県の砂からは大量のマイクロプラスチックが浮かび上がってきた。子どもたちは、マイクロプラスチックが海に浮かんでいることに気づき、生物や環境に危険が及ぶ可能性を感じ、驚いていた。	
4 外部講師の神田さんからの説明を聞いたり、質問したりする。	○本日の活動のまとめを行うとともに、今後に向けて見直しを行う。

3. 今回の活動の自己評価

・海学の際に実際に渋川の砂を採取し、それを用いて高知県と渋川海岸の砂の比較を行い、外部講師から説明を受けることで、自分たちのもった疑問に対する答えを考えたり、渋川海岸の周りの環境について知ったりすることができ、児童の満足感、達成感が感じられた。

外部講師として活動の専門家を招き、調査の準備を進めていたことでスムーズに行えた。学校だけではなく、外部機関と協働で活動を計画することにより、今回の教育活動が大変豊かになった。

児童は、砂を比較する中でさらにマイクロプラスチックに関心をもち、図書館の本等で調べたり、クロームブックを使って発表資料を工夫して作成したりしていた。自分達で疑問に思ったことや関心をもったことに対して、意欲的に取り組むことができている。特にクロームブックの使い方にも慣れ、写真の取り込み、構成、推敲などスムーズにできるようになり、便利さを感じている児童が多くなった。

今回の活動については課題を整理し、次年度以降についても継続していきたいと考える。

4. 今後の課題

・今回は高知県から外部講師を招いたため、事前打合わせは電話のみとなった。密な連絡をとったり、資料を引き継いでいったりする必要があると考える。

・観察や子ども同士の話し合いにおいて、導入された一人一台端末を効果的に活用できた。児童の主体的で対話的な学びを展開していきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・砂の比較をするため、砂の採取や道具の準備が必要となる。今回は、海学で渋川海岸の砂を採取し、事前に外部講師の神田さんに送っていた。道具等は神田さんが所属する黒潮実感センターで準備していただき、学校の方に送っていただいた。事前の準備・事後の返却など、様々な面で注意がいる。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

砂の比較 事前学習（外部講師からの話）



高知県と渋川海岸の砂の比較調査



採取した貝とマイクロプラスチック



砂に水を入れた比較



高知県の砂（左）・渋川海岸の砂（右）



3年生への発表

